

米 CDC、新型コロナ感染者への 5 日間の隔離推奨を見直し 解熱後 24 時間で通常復帰可能
3/4 ブルームバーグ



<https://news.yahoo.co.jp/articles/58f59aca6109fafa951f560a5aeccc1f6961ale>

(ブルームバーグ)： 新型コロナウイルスのテストで陽性反応が出て大半の場合、長期間の隔離は必要なくなった。米疾病対策センター（CDC）が1日、新しいガイドラインを発表した。

感染後に症状が改善しつつあり、投薬なしでも24時間発熱が見られない場合は職場や学校、その他の公共の場に戻ることができるという。新たなガイドラインは感染の重症度が低下していることに加え、治療やワクチンの有効性を認識した内容となった。

世界中で猛威を振るった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）で、110万人以上が米国で命を落としたが、ワクチンやファイザーの経口薬「パクスロビド」のような治療薬に加え、感染拡大の結果として免疫が広がったため、その脅威は著しく低下した。新ガイドラインは新型コロナウイルス感染症だけでなく、インフルエンザや呼吸器合胞体ウイルス（RSV）にも適用される。後者2ウイルスはいずれも国家的な緊急事態とはみなされていないものの、感染が死亡につながるケースがある。

CDCのマンディ・コーエン所長はブルームバーグテレビジョンとのインタビューで「新しい段階に入った」と話す。この冬の新型コロナ感染例は依然高い水準にあったものの、入院や死亡は減少したという。「このトレンドが次の季節にかけて続いたため、ガイドラインを改めることができるとの感触を得た」と述べた。呼吸器系ウイルスは依然、65歳以上の高齢者や免疫力が低下している人々には特に大きな脅威となる。高齢者や慢性疾患を持つ人々は感染者との接触リスクが高まるとして、ガイドライン変更に反対している。

CDCによれば、米国では2023年に新型コロナウイルス感染症で7万6000人が死亡。前年の24万5000人から減少した。米国ではインフルエンザで毎年5万1000人が死亡している。